

組合の強みを活かした新たな取組を
“伴走支援”で徹底サポート！

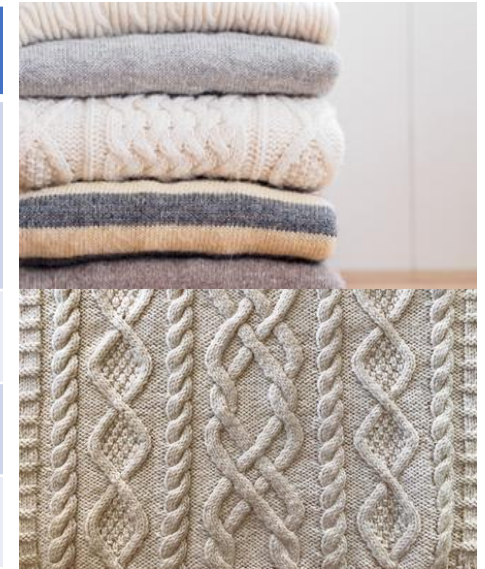
がんばる組合
経営力強化・再構築支援
プログラム2024

成果報告資料

奈良県ニット協同組合

組合概要

組合名	奈良県ニット協同組合
所在地	〒635-0024 奈良県大和高田市日之出西本町6番23号 センイ会館2階
設立	昭和31年6月12日
代表者	理事長 宮寄 充弘
組合員数	30事業所



【ニットとは】

ニットとは、糸を湾曲させた形状のループをよこ方向又はたて方向に連絡させた布地で、それぞれ横編み又は縦編と称せられます。ちなみに「織物」とは、タテ糸とヨコ糸を交差させ作ったモノです。横編み・・・編み目が横につながり、一段毎に往復して編まれた平板状の生地。丸編み・・・編み目が横につながり、一方向にらせん状に編まれた筒状の生地。

ニットの誕生は、紀元前アラビアで手編み技術が開発されたのが最初。日本へは織田・豊臣時代に靴下もたらされた。その時にメリヤス（女利安・莫大小）と名付けられました。

ニットの表情は実に多彩です。素材ひとつをとっても、ウールをはじめ、綿やシルク、麻といった天然糸、発色性に優れたレーヨンやポリエステルといった合繊などさまざまな素材が使われており、作り方も編んだ布地を裁断して縫製するカットソーや一本の糸を編みながら製品にする成型などがあります。

現状・課題

01

国際競争の激化

東アジアからの輸入が99%を占め、国内生産は約1%に過ぎず、激しい国際競争に直面している。

02

物価高騰の影響

原材料価格の上昇により、組合員の経営が圧迫され、持続的な運営が困難になっている。

03

組合収入の減少

組合員の廃業が続き、賦課金収入が減少。活動資金の確保が困難になっている

これまでの取組

奈良県靴下・ニット展示会



ニット製品の販路拡大を目指し、上海で商談会を開催。業界の注目を集めることにつながった。

視察研究



業界研究のため海外視察等を実施。規制などの最新情報や実務ノウハウなどを得ることができた。

地場産品フェアの参画



奈良県地場産品フェアに出店し、組合員の製品をプロモーション。産業の発展を図っている。

これからのニット組合の役割とは？

ニット組合における事業継続力強化に向けた再構築

(現状の姿)

効果的な組合事業がない
(何に取り組むべきか分からない)
「組合への関心の低さ」



(あるべき姿)

業界としての生き残りをかけた
積極的な取組の創出
「組合事業の活発化」

(ギャップ)

「組合と組合員の距離」
同業種異分野による異なる経営課題

共通課題への取組 = 「連携事業継続力強化計画」の策定

本事業を終えて…

【組合員との接点の構築】

- ・当初、想定していたよりも多くの組合員に参加いただくことができた。
特に役員以外の参加は「生の声」を聴くうえで大きな成果。

【今後の目標】

- ・今回策定した連携事業継続力強化計画を継続的にブラッシュアップを行い有事の際にしっかり活用できるものにするとともに、このつながりをしっかり業界発展のために活かしていくことが重要。

伴走支援について（中央会）

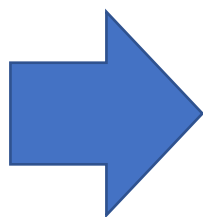
組合における課題解決型支援の考え方

組織の代表者が

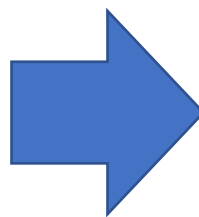
「納得（腹落ち）」して「行動に移す（自己変革力）」ことが重要だが
しかし「組合の場合は」. . .



対話と傾聴
（理事長）



対話と傾聴
（組合員）



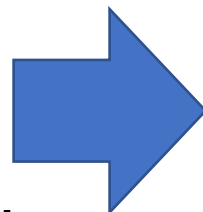
本質的課題の設定

部分的な問題解決よりも**全体の最適解が求められる**ケースがほとんどだが
しかし「組合の場合は」. . .



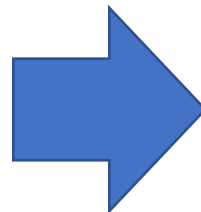
部分的課題解決

“連携事業継続力強化計画”



結束力の強化

“共通課題”に対する
継続的な取組



全体的課題解決

“新たな取組”

総括（専門家）

全体の総括

理事長の強い思いで組合活動再スタート！

集合研修	個別支援①	個別支援②	個別支援③	個別支援④	個別支援⑤
<ul style="list-style-type: none">・経営デザインシートをもとにヒアリングを実施・課題は組活動の再出発。組合員減少により、組合活動も縮小。効果が見込め、各業態の違いにかかわらず参画でき、メリットのある組合事業をスタートさせる。	<ul style="list-style-type: none">・傾聴と課題確認 ↓・組合員は、丸編生地、丸編縫製、横編3業態で構成され、組合活動で共通メリット創出が難しい。・大規模地震災害が予測されるなか、事業継続力強化計画策定から始める。	<ul style="list-style-type: none">・事業継続力強化計画の具体的な取り組み・計画内容、記載すべき項目、記載例を説明・計画認定に向けての検討項目明確化・意見交換会では、交流会に参加して協働できることが発見できたとの発表もあった。	<ul style="list-style-type: none">・事業継続力強化計画申請へのまとめ・計画書のたたき台を提示し、組合員に確認しながら申請可能な状態にした。・連携申請における同意書事例や電子申請の解説等も実施した。 ↓事業継続力強化計画申請	<ul style="list-style-type: none">・事業継続力強化計画認定 ↓・認定メリットの再確認・災害発生時マニュアルについての検討・連携事業者間での連絡、情報交換手段としてLine Worksを設定。活発なやり取りが期待できる。	<ul style="list-style-type: none">・Line Worksは今回出席者とは繋げることができた。・マニュアル策定が完了した。・個社の実情を聞くことができた。互いに参考となった。・共同訓練、講習会、視察等で組合員同士の交流機会が増える。
傾聴	傾聴	情報整理 フィードバック	申請支援	情報整理 フィードバック	情報整理 フィードバック



事業概要

イベント開催や奈良県や中央会の施策への参画を通じた業界活性化

経営方針との関係

組合員への販売機会提供、知名度獲得に資する取り組みであったが、活動量が激減

事業概要

組合員メリットの創出に向けて大規模災害時の事業継続力強化計画に取り組む。

経営方針との関係

本件を通じて組合員間の交流を創出し、組合事業活性化へ再出発する。

資源

ビジネスモデル

価値

資源

ビジネスモデル

価値

内部資源
・過去数百年 ・豊富な内部留保 会員数29社。丸編み、縫製、縦編と多様な形態
知財
外部調達資源(誰から)
知財

資源をどのように用いて価値を生み出してきたか
イベント、販売会の開催や参画
誰と組んで
奈良県、中央会
提供先へのアクセス方法
知財の果たしてきた役割

提供してきた価値
提供先(誰に)
組合員企業 一般消費者
何を
販売機会の提供 知名度獲得
提供先から得てきたもの
品質評価、認知度向上

内部資源
中核12社との結束力 豊富な内部留保
知財
外部調達資源(誰から)
奈良県中小企業団体中央会、
知財

資源をどのように用いて価値を生み出すか
事業継続力強化計画を小さな成功例として認定に持ち込む
丸編み、縫製、縦編3業態に共通する事業継続力強化計画のもとに、当面災害対策を話し合う
どんな相手と組んで
まずは、組合員内で補完業務等のビジネス機会も掘り起こしたい
提供先へのアクセス方法
組合員交流の場を増やす。若い柔軟な考え方で対処する、
知財の果たす役割

提供する価値
提供先(どんな相手に)
・ニッチ分野で活躍する組合員企業同士
何を
・事業を継続するために必要な対策ノウハウや組合員同士の受発注機会の創出
提供先から得るもの
・組合員同士の結束強化 ・災害対策、個社の事業継続力強化計画ノウハウ共有

(+) これまでの外部環境	(-)
・奈良県では繊維関連のサプライチェーンが存在している。 ・繊維商社が集積する大阪に近い	・原材料価格の高騰と価格添加が困難で収益が圧迫 ・後継者なし企業が増
市場状況	
・海外シフトが進み 国内生産1%	

事業課題(弱み)
丸編み、縫製、経編とそれぞれ経営課題は別 組合への求心力、関心の低下

「これから」の姿への移行のための戦略

(+) これからの外部環境	(-)
・大量生産は海外シフトしたが、ニッチで付加価値のある分野では国内で事業展開可能	・原材料高騰、収益圧迫
市場予測	
ニッチであるからこそ、独自の提供価値が評価されれば事業継続が十分可能	
移行のための課題	
・組合員の組合に対する関心の低下 ・効果的な組合事業が現在模索状態	

必要な資源
・新理事長と中核12社の結束力
知財
各社の知見、経営ノウハウ

解決策
・事業継続力強化計画を最大公約数課題として進める
・役員以外顔をあわせる機会さえ消失していたが、本テーマを機に事業に参画し意見交換できる環境をつくる
・業態別課題に対応した組合の取組むべき課題を議論し組合員に有効な活動として展開していく

12社共

12社共